

# 米景気後退に備え米配当貴族指数に注目

シニア・ストラテジスト 石黒英之



## ポイント① 米配当貴族指数に注目

足元のグローバル株式市場は、米国のインフレ抑制に向けたFRB（米連邦準備制度理事会）の利上げ加速への懸念、ロシアの軍事侵攻長期化への懸念、中国の厳格なゼロコロナ政策に伴う中国景気の下振れへの懸念などから、不安定な相場展開が続いています。

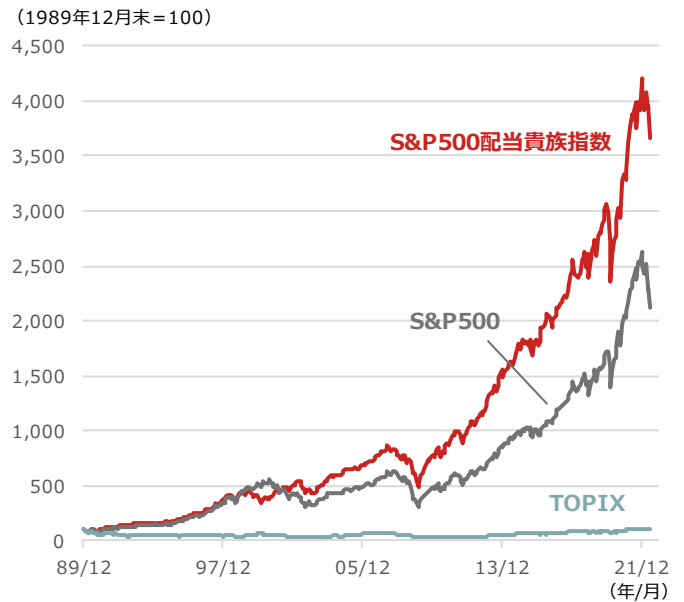
こうした環境下で注目したいのが「S&P500配当貴族指数」です。同指数は25年以上連続で増配している銘柄で構成（構成銘柄数が40を下回った場合には、20年以上連続で増配している銘柄の中から補充）されており、配当の原資となる利益が安定的に成長している企業が中心となっています。課税前配当込みでみると、同指数は母集団であるS&P500種株価指数や、TOPIX（東証株価指数）を大きく上回るパフォーマンスとなっており（右上図）、長期視点で魅力的な指数といえます。

## ポイント② 米景気後退局面に強い傾向

S&P500配当貴族指数は景気後退局面で強さを発揮する傾向があることも見逃せません。同指数とS&P500種株価指数の相対指数をみると、新型コロナ感染拡大で急な景気後退に陥った2020年を除き、1990年以降の3回の景気後退局面前後で、大きく上昇しています（右下図）。

10日に発表された6月のミシガン大学消費者信頼感指数（速報値）が過去最低を記録するなど、市場は景気後退に身構えつつあると考えられます。FRBが景気動向よりもインフレ抑制に主眼を置き、金融引き締めを加速させる公算が大きいことを考えると、景気後退局面に強いS&P500配当貴族指数を資産の一部に加えることも一手といえます。

## 主要株価指数の推移（課税前配当込み）



期間：1989年12月末～2022年6月23日、月次  
・TOPIXは円ベース、その他は米ドルベース  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

## S&P500配当貴族指数とS&P500の相対指数



期間：1989年12月末～2022年6月23日、月次  
・いずれの指数も米ドルベース、課税前配当込み  
・網掛けは米景気後退局面  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。